

はじめに

私はよく中国語の学習を「建物を建てる」行為に例えて説明します。発音の部分は土台を整える基礎工事、文法は建物の骨組みを構築する躯体工事、そして単語や決まり文句などのフレーズはその建築材料のようなものです。しっかりした建物を建てたいのであれば、まずはきちんとした基礎工事と躯体工事を行うのが絶対条件であるように、中国語をしっかりとマスターしたいのならば、発音と文法をきちんとマスターしておくことがとても重要なのです。

5千年の歴史と文化の中で形成された中国語はまるで一つの大きな超高層ビルのようなものです。基礎工事の発音は深くて音節が多く、躯体工事の文法は複雑で組み立てにくく、建築材料の語彙とフレーズは多くて使用方法が難しいです。

特に中国語の発音はどの国の言葉よりも音節が多く、さらに4つの声調などにより音調の変化も複雑で、初心者にとっては難関の1つとなっています。この難しい発音を習得するために全学習量の40%が費やされるほどです。

しかしながら数多くの日本人（中国語の初心者・経験者の中の挫折者）が中国語を学ぶ際、まず悩むのがその発音の練習方法でしょう。日本語の発音の種類が、五十音+濁音・半濁音・拗音・ん・っなどを入れても全部で100ぐらいしかないのに対して、中国語は、音節の数が約400、それぞれの音節には4つの声調（アクセント）があるので、約1,600種類にもなります（本書の発声法編の「中国語と日本語の音節対照表」を参照）。ですから日本人が中国語の全ての音を発音する場合、口の中の発声部位を母国語を話す時の何倍も多く使わなければなりません。具体的に言いますと、今まで使ったことのない口腔内の部位を使ったり、力強く声帯を振動させたり、舌を巻き上げたり、聞いたこともない音やリズムを耳でキャッチしたり等々、どれをとっても初心者を苦しめ、混乱させ、挫折感を与える原因となります。その結果、中国語の学習を諦める方も少なくないのです。

本書には私が25年間にわたる中国語の教授経験で得た様々なコツが網羅されています。例えば、21個の声母（子音）のマスターには、日本語や英語の音を借りた発音のコツを取り入れ、38個の韻母（母音）のマスターには、中国語独特の口の形の違いに従って発音を整える分類法によって取りまとめた上で日本語のカタカナも借りて説明を加えていますので、本書の音声を聞き、本書の声母表と韻母表の説明を見て発音の練習をすれば、初心者でも声母と韻母の発音のコツを各15分でつかむことができます。また、発音に関する理論的な説明と解釈を読めば、発音段階の学習ポイントとそのルールもよく分かるようになっていきます。

本書は〈第1章・発声法編〉〈第2章・発音練習編〉〈第3章・発音応用編〉〈第4章・実践応用編〉の4部で構成されています。〈発声法編〉の主な内容は、学習者から質問の多い「4つの声調の特徴」「拼音字母ピンインズームの役割」「声母セイボと韻母インボの発声法」「マンダリンと方言」及び「発音進捗表」など。〈発音練習編〉の主な内容は「あいさつ用語70例」「応用会話280例」「4つの声調練習」「音の区別練習」「音節声調の順番練習」「発音の理論知識」など。〈発音応用編〉には「日常会話150例」「4つの声調練習」「音の区別練習」のほか、入門のキーポイントや文法ポイントの説明がありますので、日常会話だけではなく、入門段階の文の基本構造の理解、応用会話や応用文の作成もできるようになります。最後の「実践応用編」の内容には「文型と文法ポイント約100例」「応用会話700例」「単語1,300個」などがあります。

本書の実践応用の学習効果を固め、さらに高めるために、第1課～第10課の各課の後には〈情景会話〉を加えてあります。

本書の内容と学習指導法をよく理解した上で、本書の音声を聞き、練習・復習を行えば、挫折することなくスムーズに中国語の発音をマスターでき、入門・初級レベルの会話能力と文法知識が身につくことでしょう。また本書に掲載された2,100余りの単語と1,100余りの会話文を覚えれば、中国語検定試験準4級と4級の合格圏内に到達するはずです。

本書が皆さんの中国語の発音や入門文法のマスターに大いに役立つこ

とを心より願っております。

最後に、本書の作成にご協力して下さった竹中知子先生に心より感謝の意を表します。

2009年10月2日

趙玲華